

科目名		経営管理特論 (Business Administration)							
学年	専攻	単位数	必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第1学年	経営情報工学専攻	2単位	必修	講義	前期 100分/週	90時間			
担当教員		【常勤】松野 成悟							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	(1)経営管理と企業論の史的展開を理解し、今日的な課題を説明することができる。 (2)コーポレート・ガバナンスに関する議論を整理し、考察することができる。 (3)ポスト産業資本主義的企業における経営管理のあり方を論じることができる。								
学習・教育目標	(C)②	JABEE基準1(2)	(d)-(1)						
関連科目、教科書および補助教材									
関連科目									
教科書									
補助教材等	プリント								
達成度評価 (%)									
(1)経営管理と企業論の史的展開を理解し、今日的な課題を説明することができる。	(1) 輪講で評価する。						25		
(2)コーポレート・ガバナンスに関する議論を整理し、考察することができる。	(2) 輪講で評価する。						25		
(3)ポスト産業資本主義的企業における経営管理のあり方を論じることができる。	(3)レポートで評価する。						50		
評価方法 指標と評価割合	(1) 輪講	(2) 輪講	(3) レポート	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	25	50						100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎	◎						
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○	○						
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】									
学習上の留意点, 学習上の助言									
<p>本授業では、経営管理やコーポレート・ガバナンスに関する伝統的な学説を吟味することによってその意義と限界を析出し、ポスト産業資本主義時代における企業のあり方について検討する。とくに、組織特長的な人的資産が新製品開発や技術革新といった創造的プロセスに果たす役割に注目する。そのため、企業経営を組織的な知識の獲得、創造、活用、蓄積といった諸側面から考察し、新たな経営学の基礎理論と方法論の可能性を論じてみたい。</p>									

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	・シラバスを通じて、学習の意義や授業の進め方、評価方法などを理解できる。	
2	現代企業の経営管理	・現代企業の経営管理の現状と動向を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
3	コーポレート・ガバナンス①	・法人の存在理由と会社のしくみについての再検討の要請が理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
4	コーポレート・ガバナンス②	・コーポレート・ガバナンスについて、経営者の信任義務を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
5	コーポレート・ガバナンス③	・コーポレート・ガバナンスの実際について、アメリカの代表事例を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
6	法人論争と日本型資本主義①	・法人論争の概要と日本型資本主義の特質を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
7	法人論争と日本型資本主義②	・組織特種的な人的資産とホールド・アップ問題を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
8	法人論争と日本型資本主義③	・日本型資本主義の起源と雇用システムの原型を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
9	法人論争と日本型資本主義④	・資本主義の史的展開と経営管理論の系譜を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
10	ポスト産業資本主義における経営管理①	・ポスト産業資本主義におけるデ・ファクト・スタンダードとコア・コンピタンスを理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
11	ポスト産業資本主義における経営管理②	・ポスト産業資本主義的企業における組織デザインを理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
12	ポスト産業資本主義における経営管理③	・ポスト産業資本主義的企業における個人と組織の関係、および企業の社会的責任を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
13	知識マネジメント①	・知識マネジメントの意義や理論的な背景を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
14	知識マネジメント②	・知識マネジメントの方法論について、情報技術とビジネスプロセスとの関係性を理解できる。	テキストを予習し、レジュメを作成する。
15	全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・全体の学習事項のまとめが理解できる。	
総 学 習 時 間 数			90 時間
講 義			25 時間
自学自習			65 時間